

6、具体的実践

本年度、学年別に6実践に取り組んだ中から、低・中・高学年3事例を中心に述べる。

(1) 低学年での実践（第2学年 説明文）

① 単元 「読めば分かるよ！わたしのおもちゃの作り方」

—じゅんじょを考えて、分かりやすい説明書を書こう—

② 文種の特質及び重点化した指導内容 《説明文》

特 質：相手が知りたいことや疑問に思うことについて情報や知識を分かりやすく伝える文章
 本単元では、おもちゃの作り方がよく分かるように必要な情報を整理し、まとまりにして順序よく書くことが求められる。
 重点化：(取材) おもちゃの作り方がよく分かるように必要な事柄を集めて整理すること
 (構成) 伝えたいことを明確にし、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えた書くこと

③ 目標

国語への関心・意欲・態度	○ 順序や具体的な表現を使って、分かりやすくおもちゃの作り方を説明しようとする。
書く能力	○ おもちゃを作ったときのことを想起し、絵や言葉に表して、作り方や遊び方等の書く必要のある事柄を集めている。 ◎ 説明したいものを決め、順序や言葉のまとまりに気を付けて説明する文章を書くことができる。 ○ 文章を読み返し、間違いなどを正すことができる。
読む能力	◎ 教材文を事柄の順序や説明の仕方について考えながら読むことができる。
言語についての知識・理解・技能	○ 順序を表す語句の分かりやすさを理解することができる。

④ 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生のために、分かりやすい説明書を書こうという意欲をもっている。 ・ 順序に気を付けたり具体的な表現を使ったりして、分かりやすくおもちゃの作り方を説明しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文「しかけカードの作り方」を事柄の順序や説明の仕方について考えながら読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おもちゃを作ったときのことを想起し、絵や言葉に表して、作り方や遊び方等の書く必要のある事柄を集めている。 ・ 説明したいことについて、必要な事柄を選び、順序や言葉のまとまりに気を付けて説明する文章を書いている。 ・ 文章を読み返し、間違いなどを正している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順序を表す言葉の分かりやすさを理解し、必要に応じて使っている。 ・ 読み手に分かるように、文字の形に注意しながら、丁寧に描いている。

⑤ 単元の指導計画（総時数13時間）

<国語科>	学 習 活 動
1、学習課題を設定し、学習計画を立てる。②	(1)生活科の学習を振り返り、学習課題について話し合う。 (2)学習計画を立てる。：サンプル文集A 交流（説明書の特質について理解する）
2、教材「しかけカードの作り方」を読み、分かりやすい説明の仕方を見付ける。④	(1)2教師作成サンプル文と教材「しかけカードの作り方」を読み、実際にしかけカードを作る。 (2)二つの説明文を比べ、説明のよさや課題を見付ける。 (3)カード作りや禅師の活動を振り返り、「分かりやすい説明のコツ」について整理する。
3、教材「おもちゃの作り方」を読み、自分の「おもちゃの作り方の説明書」を書く。⑥	(1)「けん玉のつくり方」を読んで、「分かりやすい説明のコツ」を見付ける。 (2)見直しのポイント（説明のコツ）をつかって一次表現を見直す。：サンプル文集B 交流（自分の課題を見付ける） (3)取材の仕方について話し合い、説明書に必要な事柄を集める。：サンプル文集B（取材を広げる参考にする） (4)取材したメモを組み立て、必要な絵を貼り、組み立てシートを作る。 ：サンプル文集B 交流（よりよいところを見付け自分の構成に生かす） (5)組み立てシートを見直し、下書きする。：サンプル文集B 交流（よりよいところを見付け自分の表現に生かす） (6)説明書を清書する。
4、一次表現と二次表現を比べ、学習のまとめをする。①：交流（達成感を味わい、次への意欲につなげる）	

⑥ 指導の実際

【着眼1】交流活動を位置付けた学習展開を行う

〈着眼1—①〉一次表現の課題に気付き、見直すための交流活動を行う。

先生の文には絵もないし、それに合う文もないよ。

資料1 説明書の書き方のこつ

分かりやすく書きた
めには・・・

「しかけカードの作
り方」で見付けたこ
とと比べてみよう。

つなぎ言葉も変だね。「つぎ
に」が二つもあるよ。

まとまりもおかしいね。

「見直しのポイント」をつか
って、自分の説明書も見直
してみよう。心配になつてき
たよ。一年生に分かるかな。

友だちの文しようを読むときの
ポイント
・説明書のコツをつかっているか。
・よくなるためにがんばっているか。
・もっとよくなるどころがあるん
じゃないか。

資料2 課題をたくさん見付けたワークシート

児童は、一次表現（生活科で表現したおもちゃ作りの説明文）の後、教材「しかけカードの作り方」において、「説明書の書き方のこつ」（資料1）を見付けている。ここでは、その「説明のこつ」と教師の不十分なサンプル文を比べながら「見直しのポイント」について考える交流を設定した。

自分たちが見つけた「説明のこつ」と照らし合わせながら話し合うことで、「見直しのポイント」が明らかになり、資料2のように自分の一次表現の課題（青付箋）も十分に見付けることができた。

資料3は、それぞれの児童が見つけた自分の課題を交流している様子である。自分が見つけた課題（チャレンジカード）やよい点（グッドカード）を紹介し合い、認め合ったり、自分の見直しに生かしたりしている。見直しポイントや交流のポイントを明確にしたことで、自分の見直しも友達の説明文へのアドバイスも的確にすることができた。ただ、児童各々が自分で課題を見付けることができていたので、それ以上アドバイスするのは限られた児童にしかできなかった。発達段階からいって、「自分が見つけた頑張るところを紹介する」というめあてで交流を行ってもよかったのではないかと考える。

失敗しないためのコ
ツも書いてあげた方
がいいよ。

ありがとう。
そうだね。

資料3 お互いのよさを認め合ったり、アドバイスをし合ったりする交流

〈着眼1-②〉よりよい表現をめざし、自分の表現に生かす交流活動

表現過程の各段階でよりよい表現をめざした交流を組んだ。ここでは特にこの単元の重点課題（構成）に焦点を当てて述べる。

児童は構成のポイント（着眼2で述べる）を基に、自分なりに組み立てシートを作り上げた。その組み立てシートを同じおもちゃをつくった友達同士で読み合うことにより、友達の表現のよいところを見つけて、自分に付け加えたいところを考えたり、自分の文章における作り方の順序を振り返ったりすることができた。児童の中には、友達の文章を読んで、「絵が足りないよ。」「遊ぶと

ころに、作り方の注意が入っているから、メモを動かした方がいいよ。」といったアドバイスをする姿も見られた。1年生により分かりやすくするために必要なことを考えていることが分かる。

資料4は児童の交流の様子ある。同じおもちゃを作る者同士で交流することで、友達シートを読んで見つけたよさを自分の文加えることができた。

しかし、中には、友達になぜ自分がこの順番でメモを並べたのか理由をなかなか言えない児童や、話し合う活動の際に、自分の組み立てシートを読むだけにとどまる児童の姿が見られた。その際には、教師が児童の分かりやすい所に注目させたり、「組み立てのポイント」を使うことができているかを確認させることで自分の文のよさに気付かせることが必要だった。また、日頃から話す経験を積むことの必要性を感じた。特に、交流の際には、児童の組み合わせを配慮する必要があった。

〈着眼1ー③〉自分の学びを実感できる交流活動

一次表現と完成した説明書を友達と読み比べ、感想を交流する活動を設定した。この交流のねらいは、①友達に認めてもらうことを通して自分の学習の成果を実感できるようにすること、②友達の文章を読んで、自分にはないよさを見付けること、③説明文(物の作り方を説明する文章)の特質とそれを書く際のポイントをまとめることであった。児童は自分の説明書がはじめて書いた時よりも詳しくなっていることや、友達に文章のよさをたくさん見付けてもらったことに喜びを感じることができ、自分の学びや書くことへの成就感を味わうことができていた(資料5)。また、「順序に気を付けて書いていたところがいい。」と説明書という文種の特質に応じた感想をもつこともできていた。

【着眼2】文種に応じて、重点化した内容の書く指導の工夫を行う。

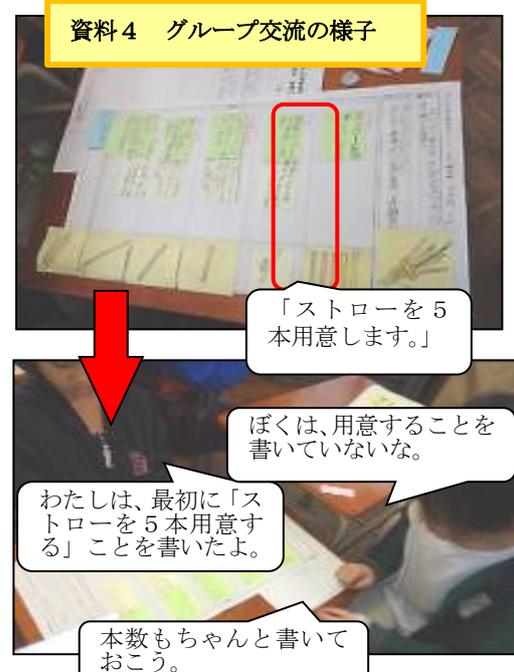
〈着眼2ー①〉ねらいを明確にしたサンプル文の活用

○ 課題設定の段階

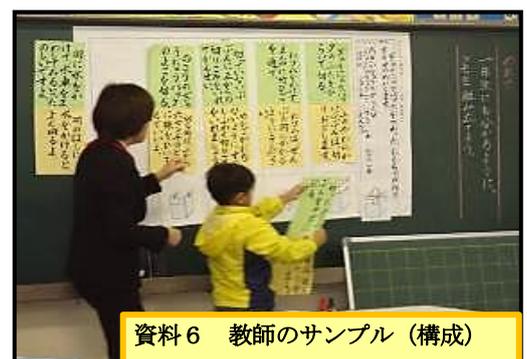
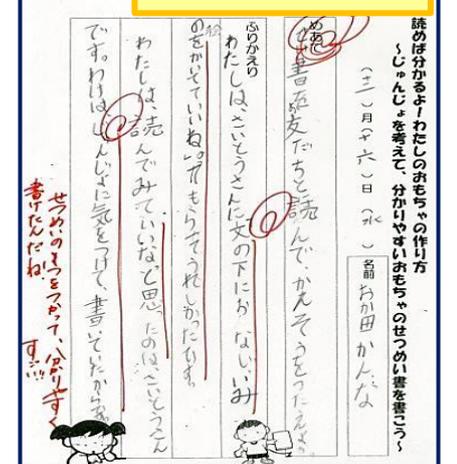
ここでは、前述したように、説明文(物の作り方を説明する文章)に必要な情報が含まれていない文章(不十分なサンプル文)を活用した。教材で見つけた「分かりやすい説明書のこつ」と比較することで、自分の説明書の課題を見付けるためのポイントを明確にするというねらいがあった。児童は自分と同じ課題を抱えたサンプル文と「説明書のこつ」を比較することで、自分の課題も明確につかむことができ、よりよくしようと試行錯誤する活動へとつながった。

○ 構成の段階

教師のサンプル(資料6)は、まず、作り方の順番に絵を提示し、その後にメモをバラバラに提示した。このことにより、児童は「バラバラだと作り方が分からない」ということに注目し、順序に気を付けて並び替えることの必要性を感じることができていた。その上で教師のサンプルメモを読み、組み立てを考えていった。このサンプルを用い



資料5 学習後の感想



資料6 教師のサンプル(構成)

るという手だてにより、児童は、①分かりやすく作り方を説明するためには、順序よくメモを並びか
 必要があること、②順を表わす言葉を使うこと③作り方の文と絵を対応させることの必要性に気付
 くことができた。また同時に、児童と同じメモの状態から組み立てを考えたことで、自分でメモを並
 び替える作業の仕方を理解し、作業の仕方に迷うことなく取り組み、自分の伝えたいことに応じた順
 序を考えることができた。分かりやすい組立てについての考えを深め、工夫している様子が分かる。

**〈着眼2-①〉多様なサンプル文にふれ、児童が自分の伝えたいことに応じた表現方法を工夫するこ
 とができるようにサンプル文集を活用する。**

サンプル文集A	1, 2年で学習する文種 <ul style="list-style-type: none"> ・手紙文 ・生活文（日記、今日のニュース） ・詩 ・観察記録文 ・感想文 ・紹介文 ・物語文
サンプル文集B	説明文（物の作り方を説明する文章） <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな順序を表す言葉や接続詞が使われているもの ・絵に吹き出しが書かれており、作り方ポイントやアドバイスが明示されているもの ・絵の配置の場所が違い、材料と道具が分けて書かれているもの

表現活動の各段階で、サンプル文集Bの中から適切なサンプル文を
 提示した。その際、文集の中にあるものを児童の課題に合わせて不十
 分なものにつくり替えたり、構成メモの段階までさかのぼったり（資
 料6）と工夫して提示した。その実際は〈着眼2-①〉で述べた通り
 である。このサンプル文集Bは、この単元の初めの段階で児童に配布
 しており、チャレンジタイム（5校時始業前の10分間）に視写をし
 たり、音読をしたりして親しんできた。

また、これとは別に、過去の2年生の説明書を掲示したり（資料7）、
 教師が作成したおもちゃとともに掲示したり（資料8）と低学年に合
 わせた提示の仕方を工夫した。児童は休み時間や文章作成の合間にこ
 のサンプル文にも親しみ、学習の見通しをもつことができた。

さらに、自分の力で学習を進めていくことができにくい児童には、
 資料9のように児童の説明文に必要なと思われる表現を提示して、そ
 の中から説明文に使いたい表現を自分で考えられるようにした。自分
 の書きたいことに応じた文章を選ぶ活動にしたことで、書くことへの抵
 抗が少なくなり、自分の考えに合った文章を取り入れることができた。

⑦ I児の変容

I児は、日頃、書く活動をする際、なかなか題材が決められなかつた
 り、書く材料が見付からず書き始められなかつたりすることが多かつた。
 また、思いついたままを順序を考えずに書いているという実態であった。

○ 題材設定

I児は、おもちゃ作りには意欲的に取り組んでおり「ぴよんぴよんうさぎ」の作り方説明書を1
 年生に渡し、喜んでほしいという意欲をもつことができた。資料10はI児が書いた一次表現であ
 る。材料や道具の紙コップやペンといった語句を使って書くことができているが、資料11のような課
 題があつた。そこで、「分かりやすい説明のこつ」を用いて自分の一次表現を見直す活動を行った。（資
 料10のチャレンジカード：水色）これを見ると、I児は説明のこつである「遊び方を書く」ことに注
 目していた。また、自分の文にはでき上がりの絵があるけれど、作り方の絵を描く等の工夫が必要であ
 ることに気付いていた。文章をより分かりやすくするための考えを深めていることが分かる。

資料7 先輩の作品



資料8 教師のサンプル文とおもちゃ



資料9 サンプル文集Bの提示

さらにこの後、同じおもちゃを作った友達同士で一次表現を読み合い、グッドカードとチャレンジカードを貼る活動を行った。このことにより、自分では気付かなかったよいところや、もっとよくなる場所を知ることができ、次の取材に生かすことができた。

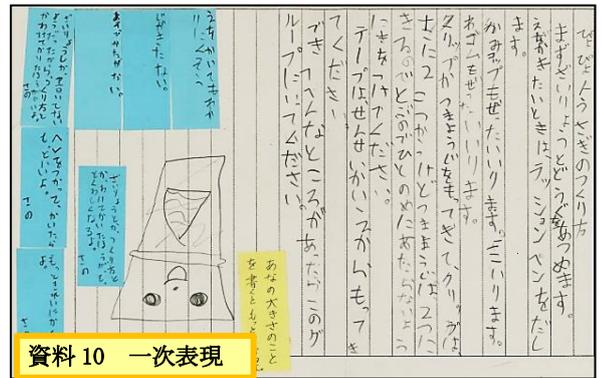
○ 取材

資料12は、一次表現の見直しを受けて、作り方についての文と絵を付箋にかいたものである。緑色の付箋に「すること」、黄色の付箋に「気を付けること」を書いている。

I児は、作り方の中で紙コップに輪ゴムを通す穴を開ける必要性に気づき、「あなをあける」というメモや「わゴムをとおす」というメモ、そして、「かざりをつけたらかんせい」というメモを書いて詳しくしていた。さらに、一次表現と比べると、することと気を付けることを区別して書いているのが分かる。しかし、メモの中には、「友だちと遊ぶ」「仲よく遊ぶ」というように、遊び方についても書かれており、この付箋が作り方に必要かそうでないかを考えることが構成においての課題になった。また、長さや大きさ、数といった、詳しくする言葉を用いることも課題である。

○ 構成

そこで、I児と同様に、作り方のメモにも関わらず遊び方を説明したメモを混ぜた教師のサンプルメモの並び替えを全員で考えた。すると、組み立ての3つのポイント（①作り方のじゅんにならべる、②じゅんじょをあらわすことばを入れる、③文に合った絵を入れる）に加えて、遊び方のメモは作り方を説明する場所には書かないことを全員で確認できた。



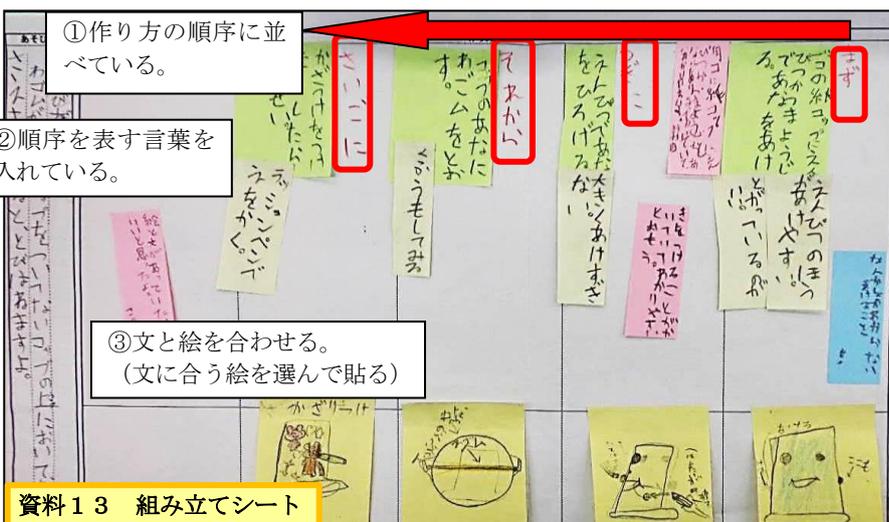
資料10 一次表現

資料11 I児の課題

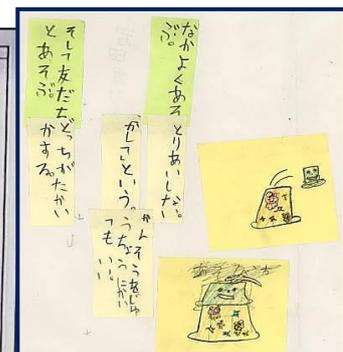
- ① まとまりごとに分けられていない。
（「前書き」「材料と道具」「作り方」「遊び方」）
- ② 必要に応じて順序を表す言葉が用いられていない。
- ③ 作り方における「すること、気を付けること」が詳しく書かれていない。
- ④ 文と絵が対応していない。



資料12 取材シート



資料13 組み立てシート



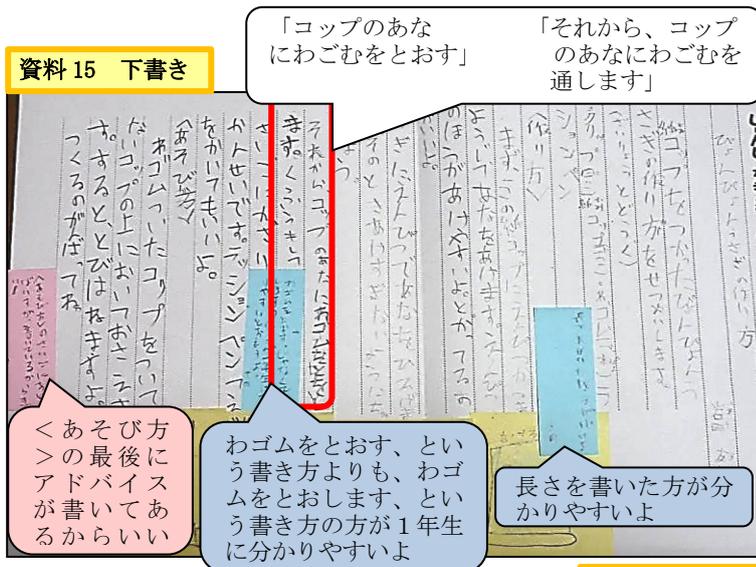
資料14 I児が取り除いたメモ

この後、I児は、自分のメモを資料13のように並びかえることができた。これを見ると、I児は、自分のメモを作り方の順に並べ、順序を表す言葉を適切に用いていることがわかる。また、取材の段階で作り方のメモに入れていた「友達と遊ぶ」等の遊び方についてのメモは、ここでは必要ないことに気づき、資料14のように自分で取り除き、説明に必要なものを選ぶこともできた。こ

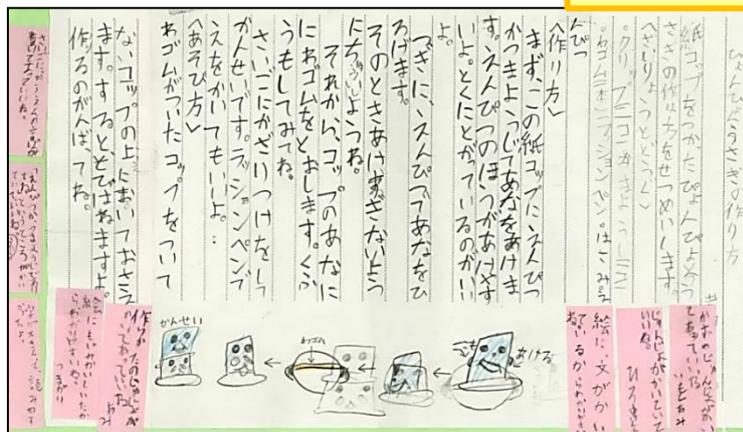
のように、ねらいを明確にしたサンプル文を用いて、自分の課題に役立てるために交流したことで、I児は、よりよい構成になるように、自分の考えを深め工夫したことが分かる。

○ 記述

資料15は、組み立てシートをもとにI児が書いた下書きである。ここではただ組み立てシートを書き写すだけになっていた。しかし、友だちとの交流の後には、チャレンジカードをもとに書きかえ、資料16のように清書することができた。一次表現と比べると、①まとまりごとに分けられていて(「前書き」「材料と道具」「作り方」「遊び方」)、②作る順序で並べ、順序を表す言葉が用いられていることが分かる。さらに、③作り方で「すること」と「失敗しないこと」に分けて、④絵と文を対応させながら書くことができています。また、内容をもみても、することと気を付けることを整理して分けて書くことができていたことが分かる。このように、目的と観点を明確にした交流を重ねることで、I児は考えを深め分かりやすい説明書を書くことができたのである。



資料16 清書



○ 振り返り

完成した説明書を読み合う交流では、資料16のグッドカード(ピンク)に見られるように、説明のこつを上手に使用して書いていて、分かりやすいという感想をたくさんもらうことができた。また、友達の説明書を読んだり、友達に読んでもらったりしてうれしいという感想を書いている。このお互いのよさを認め合う交流は、1年生にも読んでもらいたいという気持ちを一層高めることにつながっていった。

(1) 中学年での実践(第4学年 説明文)

① 単元 「折西クラブ活動リーフレット」

—クラブ活動のよさをみんなに伝えよう—

② 文種の特徴及び重点化した指導内容 《説明文》

特質：相手がよく知らない情報や知識を分かりやすく伝える文章

本単元では、クラブ活動のよさや楽しさがよく分かるように必要な事柄を集めて整理し、伝えたいことを中心に沿って組み立てることが求められる。

重点化：(取材・構成)自分の考えに沿って書く事柄を集めて整理し、伝えたいことを中心に沿って組み立てていくこと(記述)写真と取材した内容が相手に分かりやすく伝わるように書くこと

③ 目標

国語への 関心・意欲・態度	○ 分かりやすく説明するために、写真を選んだり、文章を書いたりしようとする。
書く能力	◎ 書こうとしていることの内容を明確にして、写真と文章を対応させながら、段落相互の 関係に注意して文章を書くことができる。 ○ 書こうとすることの内容を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができる。